希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100－8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

伝言板

▼岩手県久慈市大川目町の山口次男さん(64)へ 姉で松山市の山口豊子さん(70)が消息を求めています。次男さんは建設業で働いていたようです。次男さんの自宅に何度も電話をしていますが、呼び出し音が鳴るばかりです。自宅（089・941・7132）に連絡ください」

×　×　×

▼胃ろうの栄養剤、送ります　名古屋市守山区の山田悦子さん(54)が、胃ろうの栄養剤を無料で送ります。イーエヌ大塚製薬の経腸栄養剤「ツインライン」で、400ミリリットルが41個あります。使用期限は今年6月。400ミリリットルで400キロカロリー摂取でき、1日1200キロカロリー必要として十数日分です。「父が転院し残った物ですが、使っていただければ。腐ってしまうので先着順に送りたいです。郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いてファクス（052・792・4870）してください」

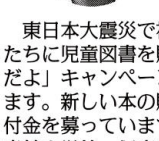
▼軽トラの譲渡先、決まりました　16日に掲載した山形県朝日町の岩崎孝彦さんの軽トラックの譲渡先は、宮城県多賀城市の河原田勝儀さん(55)に決まりました。河原田さんは市総合体育館に避難中で、震災前はパンを焼いて軽トラで販売して回っていました。「計4人から依頼が来ましたが、トラックがあればまた仕事ができるのではと思い、河原田さんに連絡を取りました。整備点検に出し、21日に引き渡します」

必ず、何とかなる

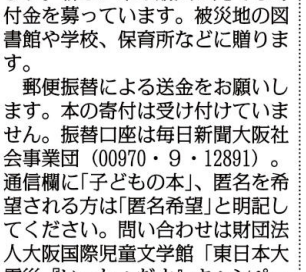
東日本大震災が起きた日、テレビで船や車が流されているのを見て、とんでもないことになったと思いました。交流していた宮城県石巻市の小学校が心配でしたが、10日後に先生から「学校がめちゃくちゃになった」とメールがきました。

初めは「絵本なんて役に立たん」と無力感がありました。でも避難所の子どもが本を読めるようになったと聞いてうれしくなった。笑顔とか言葉とか「誰かのために何かしたい」という気持ちが生きる力をくれる。絵本が、その後押しになればうれしく思います。

子どもたちには「みんな、えらい。みんな、素晴らしい。必ず何とかなるから、希望を持って」と言いたい。僕は、みんなが少しでも笑顔になれるような絵本を書きます。【聞き手・反橋希美】



絵本作家
長谷川義史さん(50)
＝大阪市



長谷川さんが寄せたイラスト

東日本大震災で被災した子どもたちに児童図書を贈る「いっしょだよ」キャンペーンを実施しています。新しい本の購入に充てる寄付金を募っています。被災地の図書館や学校、保育所などに贈ります。

郵便振替による送金をお願いします。本の寄付は受け付けていません。振替口座は毎日新聞大阪社会事業団（00970・9・12891）。通信欄に「子どもの本」、匿名を希望される方は「匿名希望」と明記してください。問い合わせは財団法人大阪国際児童文学館「東日本大震災『いっしょだよ』キャンペーン」事務局(06・6744・0581)へ。

主催　(財)大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

サポート情報 ～東日本大震災～

17日現在

子ども

■学用品の支援

文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」（http://manabishien.mext.go.jp/）文房具や学習机、部活動の道具、家庭教師のボランティアなど、被災した子どもたちに必要となる物品や支援を募集できるサイトを文部科学省が開いている。必要な物品などをサイト上で公表し、支援できる人が応じる。地域や学校、避難所単位でニーズを集約して協力を募る仕組みだが、個人で呼びかけることもできる。インターネットに接続できない人のために相談ダイヤル（☎080・2071・1688、1689、10～18時）も設置。

■電話相談

子どものための電話相談「チャイルドライン」（☎0120・99・7777、平日土曜16～21時）　18歳までの子どもを対象に、悩みだけでなく、誰かに話を聞いてほしいなど、内容問わず電話を受け付けている。

東日本大震災後は相談数が急増。主催のNPO法人チャイルドライン支援センター（東京都新宿区）によると、3月11日～5月10日の青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県からかかってきた電話は時間外も含め9470件で、昨年3～4月の約1・7倍。特に岩手県は昨年同期の3～4倍という。9470件のうち話ができたのは2627件で、被災地からは「自分は無事だったが、家族が亡くなった友達がいる。生き残ったことを喜べない」「気持ちが落ち着かない」「被災した親戚が心配」などの電話が寄せられている。

東京都立小児総合医療センター「震災後のこどものこころ電話相談室」（☎0120・556・465。9時半～16時半、土日休み）　3歳前後から高校生までの被災者、またはその家族からの相談に、医師や臨床心理士などの専門家が応じる。

給付・貸付

岩手、宮城、福島3県の主な地元金融機関は、震災復旧資金として、被災した事業者や個人向けの低利融資制度を設けている。被災事情ごとに対応が可能な所も多く、詳細は金融機関の窓口に直接問い合わせを。

主な信用組合、JAの個人向け融資に関する問い合わせ先は次の通り。

◆石巻商工信用組合　16日から災害復旧ローンを取り扱い中。また、融資金返金の猶予などの相談にも応じている。相談は本店、湊支店をのぞく各支店窓口。または☎0225・95・3333（平日9～17時）。

◆いわき信用組合　住宅改修や車の買い替え、家財購入などに使える多目的ローンほか、生活支援資金などを取り扱い中。相談は各営業店窓口。または☎0120・212・334（平日11～19時、日曜11～17時）。

◆相双信用組合　本店・各支店で生活再建支援融資を取り扱う。相談は☎0244・36・5561（平日9～15時）。

◆JA　震災関連での融資対応は、利用している各地のJA店舗または各本店(本所)に、直接問い合わせを。各県の問い合わせ窓口は、JAバンク岩手☎0120・271・756▽同宮城☎022・711・7541▽同福島☎024・552・5692。つながらない場合は、本店相談ダイヤル☎0120・055・132（平日9～17時）へ。

「読み聞かせ隊」派遣　ポプラ社（東京都新宿区）は、避難所の子どもたちを対象に、本の「読み聞かせ隊」を派遣している。今後は、児童文学作家の角野栄子さん、絵本作家の宮西達也さん、作家の林真理子さんなどが参加予定。派遣希望者はメール（poplar2011@poplar.co.jp）、はがき（〒160－8565新宿区大京町22の1、ポプラ社宣伝広報部読み聞かせ係）、ファクス（03・3351・1370）、電話（03・3357・2901）のいずれかに、氏名、避難所の住所、希望日程、連絡先（電話番号）を明記して申し込む。

義援金(第1次配分)交付申請の問い合わせ先

日本赤十字社、中央共同募金会など4団体を通して集められ、各県に配分された義援金と、各県に直接寄せられた義援金の第1次配分が行われる。各市町村で交付申請の受け付けが始まっている。

△岩手県▽
死亡・行方不明者＝1人当たり50万円▽住宅全壊＝1戸当たり50万円▽住宅半壊＝同25万円。県生活再建課☎019・629・6926。

△宮城県▽
第1次配分は4団体義援金のみ。死亡・行方不明者＝1人当たり35万円▽住宅全壊＝1戸当たり35万円▽住宅半壊＝同18万円。

県義援金についても配分方針が決まった。死亡・行方不明者＝1人当たり15万円▽失明など重い後遺障害＝同10万円▽震災遺児（18歳以下）＝同50万円▽住宅全壊＝1戸当たり10万円▽住宅全壊に準じる大規模半壊＝同7万円▽住宅半壊＝同2万円。

県分は今後交付される。県社会福祉課☎022・211・2516。

△福島県▽
死亡・行方不明者＝1人当たり35万円▽住宅全壊＝1世帯当たり40万円▽住宅半壊＝同23万円▽福島第1原発から30キロ圏内または計画的避難区域の世帯＝同40万円。

現在、県外に避難あるいは在住していても、震災当時住んでいた市町村への申請となる。県社会福祉課☎024・521・7322。県のウェブサイトでも確認できる。

＜岩手県＞

滝沢村	019・684・2111
花巻市	0198・24・2111
北上市	0197・64・2111
遠野市	0198・62・2111
奥州市	0197・24・2111
平泉町	0191・46・2111
一関市	0191・21・2111
大船渡市	0192・27・3111
陸前高田市	0192・59・2111
住田町	0192・46・2111
釜石市	0193・22・0177
大槌町	0193・42・8715
宮古市	0193・62・2111
山田町	0193・82・3111
岩泉町	0194・22・2111
田野畑村	0194・34・2111
久慈市	0194・52・2111
普代村	0194・35・2113
野田村	0194・78・2111
洋野町	0194・65・2111
九戸村	0195・42・2111

＜宮城県＞

仙台市	022・261・1111
石巻市	0225・95・1111
塩釜市	022・364・1111
気仙沼市	0226・22・3402
白石市	0224・22・1561
名取市	022・384・2111
岩沼市	0223・22・1111
角田市	0224・61・1185
多賀城市	022・368・1141
登米市	0220・22・2111
栗原市	0228・22・1122
東松島市	0225・82・1111
大崎市	0229・23・2111
蔵王町	0224・33・2211
大河原町	0224・53・2111
村田町	0224・83・2111
柴田町	0224・55・2111
亘理町	0223・34・1111
山元町	0223・37・1111
七ケ浜町	022・357・2111
利府町	022・767・2111
大和町	022・345・1111
大郷町	022・359・3111
富谷町	022・358・3111
大衡村	022・345・5111
色麻町	0229・65・2111
加美町	0229・63・3111
涌谷町	0229・43・2111
美里町	0229・33・2111
女川町	0225・54・3131
南三陸町	0226・46・2600

※岩手・宮城は受け付けを始めた自治体のみ

＜福島県＞

南相馬市	0244・22・2111
	024・531・9311
	9312
相馬市	0244・37・2121
広野町	0246・43・1330
	1331
楢葉町	0242・56・2155
富岡町	0120・336・466
川内村	024・946・3375
	3378
	3382
	8828
大熊町	0242・26・3844
双葉町	0480・73・6880
浪江町	090・1710・8468
	090・6064・2853
	090・6603・2280
葛尾村	0242・83・0271
新地町	0244・62・2111
飯舘村	
（平日昼間）	0244・42・1611
（24時間）	0244・42・1626
いわき市	0246・25・0500
福島市	024・535・1111
二本松市	0243・23・1111
伊達市	024・575・1111
本宮市	0243・33・1111
桑折町	024・582・2111
国見町	024・585・2111
川俣町	024・566・2111
大玉村	0243・48・3131
郡山市	024・924・7111
須賀川市	0248・75・1111
田村市	0247・81・2111
鏡石町	0248・62・2111
天栄村	0248・82・2111
石川町	0247・26・2111
玉川村	0247・57・3101
平田村	0247・55・3111
浅川町	0247・36・4121
古殿町	0247・53・3111
三春町	0247・62・2111
小野町	0247・72・2111
白河市	0248・22・1111
西郷村	0248・25・1111
泉崎村	0248・53・2111
中島村	0248・52・2111
矢吹町	0248・42・2111
棚倉町	0247・33・2111
矢祭町	0247・46・3131
塙町	0247・43・2111
鮫川村	0247・49・3111
会津若松市	0242・39・1111
喜多方市	0241・24・5221
北塩原村	0241・23・3111
西会津町	0241・45・2211
磐梯町	0242・74・1211
猪苗代町	0242・62・2111
会津坂下町	0242・84・1503
湯川村	0241・27・8800
柳津町	0241・42・2112
三島町	0241・48・5511
金山町	0241・54・5111
昭和村	0241・57・2111
会津美里町	0242・55・1122
下郷町	0241・69・1122
檜枝岐村	0241・75・2311
只見町	0241・82・5050
南会津町	0241・62・6100

「仮設のトリセツ」開設

仮設住宅に住むノウハウを集めたウェブサイト「仮設のトリセツ」（http://kasetsukaizou.jimdo.com）が開設された。04年の新潟中越地震の仮設住宅で、入居者の情報交換のためのオープンカフェを開き、入居者の知恵を集めて公開した新潟大学工学部建設学科の岩佐明彦研究室が開いた。仮設の住環境を快適にするヒントを写真付きで紹介している。

仮設住宅は、鉄の柱と薄いパネル状の壁でできている。熱と音が伝わりやすいため、夏は暑くて冬は寒く、結露しやすい。隣室に音が響くという問題点もある。

同サイトには、壁に段ボールを張って防音▽プチプチの梱包（こんぽう）材を窓ガラスに張って結露を抑える▽フックや押しピンとしてマグネットを利用――などの事例を載せている。

手の込んだものでは、外壁に園芸用の格子状のトレリスを取り付けて花を飾ったり、物置や犬小屋、サンルームを作った例もある。だが、全く手を入れないで住む人たちもいたという。

同研究室の田沢孝紀さん(23)は「仮設の入居期間は原則2年ですが、中越地震では3年間住んだ人もいて、入居中の住環境整備は大切です。仮設を住みこなす知恵を広く知ってほしい」と話している。【中村美奈子】

仮設住宅に住むノウハウが満載のウェブサイト「仮設のトリセツ」

ボランティアが減少

連休後、学校・仕事に戻る

大型連休終了後、被災地で活動するボランティアが減っている。受け入れ態勢が徐々に整い、がれき撤去や物資の整理、配送、調理などニーズが多様化する一方、学生は新学期が始まり、社会人も仕事に戻ったためだ。

岩手県災害ボランティアセンターを運営する同県社会福祉協議会によると、連休中のピークだった3日は2793人が活動したが、10日は646人に減った。

現在、平日は1000人前後になっている。当初は市民のみ募集していた仙台市災害ボランティアセンターも10日から、市外・県外からの募集を始めた。

RQ市民災害救援センター（事務局・東京）の木村彩子さんは「連休中は4拠点で1日300人が活動したが、現在は活動人数が10人に満たない拠点もある。人手は決定的に足りない」と話す。ただし「都内での説明会は毎回盛況で、開催を週2回に増やした。関心が低くなっているわけではない」とみる。

同センターは、5日以上の継続が望ましいとしている現地ボランティアを数日間や1日だけでも受け入れたり、無料バスを運行するなど、ボランティア希望者のライフスタイルにも合わせた受け入れを模索している。【藤田祐子】

■被災地へボランティアに行くには■

連休明けからボランティア参加が減っており、被災地の災害ボランティアセンター（VC）では募集を続けている。問い合わせの電話をする前に各サイトで情報の確認を。また、居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主な窓口は次の通り。

＜岩手県＞
県VCや各社協が、内陸部を拠点に沿岸部の被災地に送迎バスで派遣をしている
◆県VC　☎019・637・9711　サイトでは、個人が参加できるボランティアバスの運行詳細や、各VCの募集情報を公開中
◆遠野市VC「遠野まごころネット」　☎0198・62・1001　遠野市発着便で毎日派遣。登録も随時受け付けている。要事前申し込み。体育館で宿泊可（寝袋が必要）

＜宮城県＞
県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳しくは各VCのサイトで確認
◆仙台市VC　☎022・262・7294　県外からの募集開始。5人以上の参加は要事前申し込み
◆石巻市VC　☎0225・23・6015　要事前申し込み
◆塩釜市VC　☎080・1679・8988
◆気仙沼市VC　☎080・5949・7475　JR一ノ関駅発着の送迎バス（各日先着20人）を20日まで運行中
◆名取市VC　☎022・784・3040　20人以上の団体は要事前問い合わせ
◆多賀城市VC　☎080・5949・7501　土のう袋が不足しているのでなるべく持参
◆岩沼市VC　☎080・5949・7541
◆東松島市VC　☎0225・83・5001　車中泊スペースを開設。5人以上は前々日までに申し込みが必要
◆亘理町VC　☎080・5949・7719
◆山元町VC　☎080・5949・7720　前日までに申し込み必要
◆七ケ浜町VC　☎090・6853・4490　団体は事前申し込みが必要
◆南三陸町VC　☎080・2055・1066　県外者も受け入れ中。団体は不可

＜福島県＞
4市町で県外者も募集中。特に南相馬市VC、新地町VC、いわき市VCでのニーズが高い
◆相馬市VC　☎0244・36・7827
◆南相馬市VC　☎0244・24・1877
◆新地町VC　☎0244・62・5577　要電話確認。テント泊、車中泊は禁止
◆いわき市VC　☎0246・22・5501

ボランティア

民間団体のボランティア説明会の日程は次の通り。

◆RQ市民災害救援センターボランティア説明会　水曜19時、土曜11時、東京都荒川区西日暮里5の38の5の日本エコツーリズムセンター。ウェブサイト（http://www.rq-center.net/）から要予約。問い合わせ☎03・5834・7977。

◆ピースボート災害ボランティアセンター緊急支援ボランティア説明会　東京＝22日14時、28日14時▽名古屋＝21日14時、29日14時▽大阪＝22日14時、28日14時▽福岡＝21日14時。問い合わせ☎03・3363・7967。

◆国際ボランティア学生協会災害ボランティア募集　27～30日に宮城県気仙沼市などで活動する希望者を募集。東京・新宿発着、27日夜集合、30日早朝解散。参加費500円（交通費・食費込み）、先着200人、25日締め切り。学生以外も参加可能。問い合わせ☎03・6751・2683。

電話帳

●行方不明者相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000
福島県警　024・522・2151（内線3024）
●通信・ライフライン
NTT災害用伝言ダイヤル　171
日本郵便　0120・2328・86（平日8～22時、土日祝9～22時）
東北電力　0120・175・366
●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連　0120・755・199（9～21時）
放射線医学総合研究所相談窓口　043・290・4003（9～17時）
日本糖尿病協会0120・151・721（平日9～18時）
被災がん患者ホットライン（国立がん研究センター）
紹介状あり＝03・3547・5130（平日10～16時）
紹介状なし＝03・3547・5293（平日9～18時）
てんかん支援ホットライン　054・245・5446
アレルギー支援ネットワーク　052・485・5208
●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会　0120・216・151（10～16時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
全国社労士会連合会　0120・000・528（平日10～17時）
日本司法書士会連合会　0120・445・528（平日10～16時）
あしなが育英会　被災者専用　0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
心の相談緊急電話　0120・111・916（19～21時。日本臨床心理士会など）
チャイルドライン　0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時）
●省庁　※平日のみ
公営住宅等情報センター　0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省）　0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）0120・511・556
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※
●金融・保険　※平日のみ
ゆうちょ銀行　0120・108・420
住宅金融支援機構　0120・086・353
日本政策金融公庫　0120・154・505（土日0120・220・353）
預金口座照会センター（全銀協）0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会）0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会）0120・107・808または03・3255・1306
●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市　高田町鳴石　0192・54・2111
釜石市　シープラザ釜石　0193・22・8253
大槌町　大槌小学校　0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町　女川第二小学校　0225・54・3131
南三陸町　町総合体育館ベイサイドアリーナ　0226・46・2600
＜福島県＞
広野町　FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場　0246・43・1331
楢葉町　会津美里町本郷庁舎　0242・56・2155
富岡町　郡山・ビッグパレット　0120・336・466
川内村　郡山・ビッグパレット　024・946・8828
大熊町　会津若松市追手町第2庁舎　0242・26・3844
双葉町　旧埼玉県立騎西高校　0480・73・6880
浪江町　二本松市東和支所　0243・46・4731
葛尾村　会津坂下町・川西公民館　0242・83・2651
★双葉郡支援センター　0120・006・865
上記8町村の避難住民向け。8～22時
★一時立ち入り受付センター　8～22時　0120・208・066
南相馬、楢葉、富岡、双葉、大熊、浪江の6市町への一時立ち入りに必要な登録を受け付ける